

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：稼働率・生産能力指数(7月)  
～ 生産能力指数も下げ止まり ～

発表日：9月13日(火)

(No. J - 114)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 新家 義貴(03-5221-4528)

(単位：%)

		稼働率指数						生産能力指数					
		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
04	1-3月	0.1	6.0	0.3	13.3	▲1.5	3.7	▲0.5	▲1.7	0.8	2.5	▲0.1	▲1.2
	4-6月	1.9	5.7	0.6	15.3	4.3	6.5	0.1	▲1.0	4.2	5.5	▲1.9	▲2.4
	7-9月	0.3	5.6	▲4.6	2.7	▲0.7	5.2	▲0.1	▲0.7	1.5	7.3	▲0.7	▲2.7
	10-12月	▲0.2	2.2	▲5.0	▲8.5	0.3	2.9	0.0	▲0.5	2.5	9.3	0.1	▲2.6
05	1-3月	0.9	1.6	1.7	▲8.4	3.4	5.9	▲0.3	▲0.3	0.3	8.7	1.0	▲1.5
	4-6月	1.6	2.6	0.5	▲7.3	1.1	4.0	0.0	▲0.3	1.3	5.7	▲0.2	0.2
04	1月	2.5	4.8	▲0.2	12.8	1.5	▲0.9	▲0.4	▲1.8	▲0.3	1.4	▲0.1	▲1.8
	2月	▲4.0	5.5	▲3.3	11.9	▲3.3	2.0	▲0.1	▲1.7	0.0	1.4	0.0	▲0.9
	3月	0.9	7.5	2.5	15.0	2.5	9.3	0.2	▲1.5	2.8	4.8	0.0	▲0.9
	4月	2.7	6.7	▲0.1	15.2	4.5	9.8	0.2	▲1.0	1.3	4.6	0.0	▲0.8
	5月	0.0	3.1	1.3	15.8	▲2.3	▲0.4	▲0.4	▲1.2	1.4	5.5	▲3.1	▲3.4
	6月	▲0.1	7.2	▲1.9	14.9	2.4	9.9	0.1	▲0.8	0.0	6.5	0.5	▲2.9
	7月	0.4	4.7	▲3.0	5.4	▲1.5	3.6	▲0.1	▲0.8	0.8	7.3	0.0	▲2.9
	8月	0.2	8.4	1.7	7.0	▲1.5	6.1	0.1	▲0.7	0.3	7.5	0.0	▲2.9
	9月	▲0.5	4.1	▲5.7	▲3.8	3.1	6.1	0.0	▲0.7	0.2	7.2	0.2	▲2.5
	10月	0.0	▲0.2	▲0.2	▲7.4	▲0.5	▲0.9	0.0	▲0.5	2.1	9.2	0.0	▲2.5
	11月	0.8	5.6	▲2.6	▲8.3	1.5	10.0	0.0	▲0.5	0.1	9.5	0.0	▲2.5
	12月	▲1.4	1.2	0.7	▲9.9	▲5.1	▲0.3	0.0	▲0.4	0.3	9.3	▲0.1	▲2.6
05	1月	3.1	1.6	2.7	▲9.0	6.8	5.3	▲0.2	▲0.2	▲0.3	9.4	1.1	▲1.5
	2月	▲1.7	1.8	▲0.7	▲8.1	▲0.4	7.2	0.0	▲0.1	0.3	9.7	0.0	▲1.5
	3月	▲1.2	1.4	▲0.5	▲8.3	0.1	5.2	▲0.1	▲0.4	0.4	7.1	0.0	▲1.5
	4月	4.3	2.6	2.5	▲6.8	5.7	5.6	▲0.1	▲0.8	▲0.8	4.9	0.0	▲1.5
	5月	▲2.3	2.9	▲3.4	▲9.4	▲7.5	4.4	0.3	0.0	2.3	5.8	▲0.2	1.4
	6月	0.6	2.3	3.0	▲5.8	2.6	2.3	0.0	▲0.1	0.5	6.3	▲0.1	0.8
	7月	▲1.6	▲1.0	0.8	▲3.0	▲4.4	▲2.9	0.0	0.0	0.0	5.5	0.0	0.8

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

## ○ 稼働率は高水準、生産能力指数も下げ止まり

7月の稼働率指数は前月比▲1.6%の低下となった。一般機械工業(同▲3.9%)、電気機械工業(同▲5.6%)、輸送機械工業(同▲4.4%)などが低下に寄与している。なお、単月としては比較的大きい低下幅ではあるが、8、9月の生産予測指数がそれぞれ前月比+2.3%の増加を見込んでいることを踏まえると、一時的な低下に過ぎないと考えられる。稼働率は緩やかな上昇基調にあると見てよいだろう。また、水準でみても、ここ数ヶ月間は、消費税引き上げ前の駆け込み需要で好調だった97年前半とほぼ同程度の高水準にまで上昇している。

足元の設備投資が堅調に推移している背景としては、期待成長率の改善、バランスシート調整に目処がついてきていること、設備の老朽化対応や新製品開発のための投資など競争力維持のための投資意欲が引き続き根強いこと、といった構造的な要因があると思われるが、その他にも、こうした高水準の稼働率が足元で能力増強投資に繋がり始めている要因も大きい。実際、長期にわたって低下を続けていた生産能力指数は、足元では前年比横ばいと下げ止まっている。今後、年末にかけて生産が明確に回復基調に入るとみられるなか、能力増強投資も増加していくと予想され、生産能力指数も緩やかながらも増加に転じる可能性が高い。

なお、重要な点として、生産能力が下げ止まってきたとはいっても、まだ資本ストックが積みあがるほど

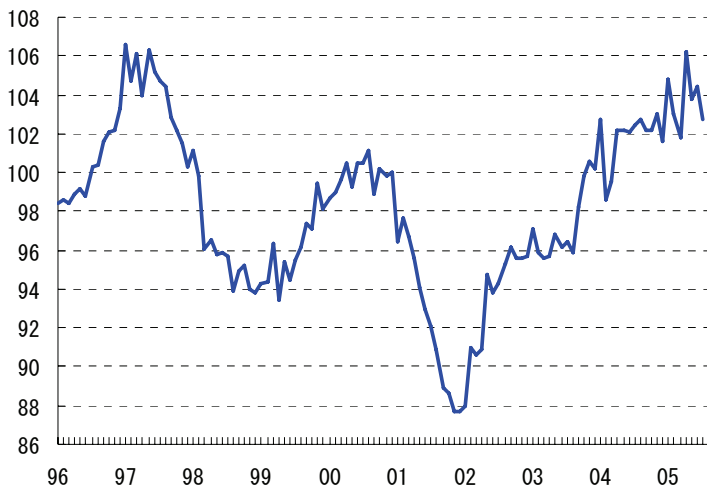
の状況には至っていないことがあげられる。つまり、ストック循環的にも設備投資拡大余地は大きい。こうしたことから、設備投資は今後しばらくは増加しやすい環境下にあると思われる。

### ○ 生産確報は速報とほぼ変わらず

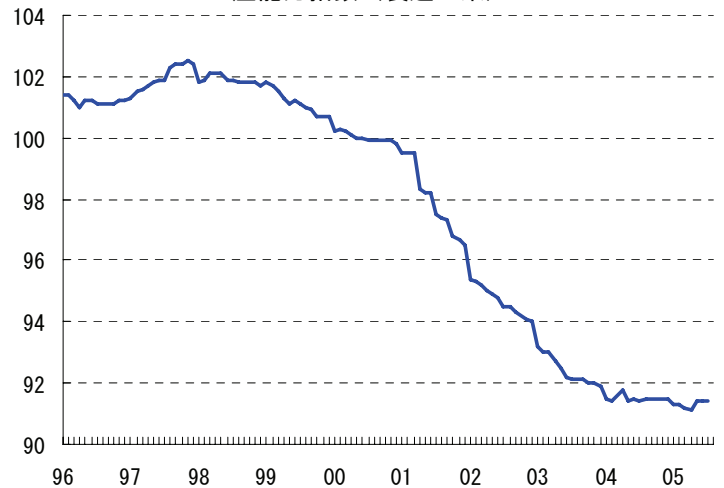
同時に公表された7月の鉱工業指数確報は、速報段階とほぼ同じ結果だった。生産指数は前月比▲1.2%と速報段階の同▲1.1%から▲0.1%Pの下方修正となった。また、出荷が同▲1.5%(速報同▲1.2%)、在庫が同+0.5%(速報同+0.4%)、在庫率が同+7.2%(速報同+6.8%)となった。また、仮に予測指数(8月前月比+2.3%、9月同+2.3%)通りに推移すれば、7-9月期は前期比+1.2%となり、7-9月期が前期比で増加に転じる可能性が示唆されている状況にも変化はない。

なお、7月は非IT関連財の在庫、在庫率の上昇が目立つが、これは、7月は月末が土日であったため、輸送機械や鉄鋼といった業種において船待ち在庫が増えた可能性がある。また、化学では一部企業における定期修理前の造り込みの影響もあったようだ。中国向け輸出が既に最悪期を脱している可能性が高いことなどを考えると、非IT関連財の在庫調整圧力が足元で大幅に強まっているとも考えにくい。この点については8月に反動が出る可能性があるため、7、8月を均して判断する必要があるだろう。非ITの在庫調整進捗が遅れていることは確かだろうが、現時点で非ITの在庫積み上がりを強調し過ぎる必要はないと思われる。

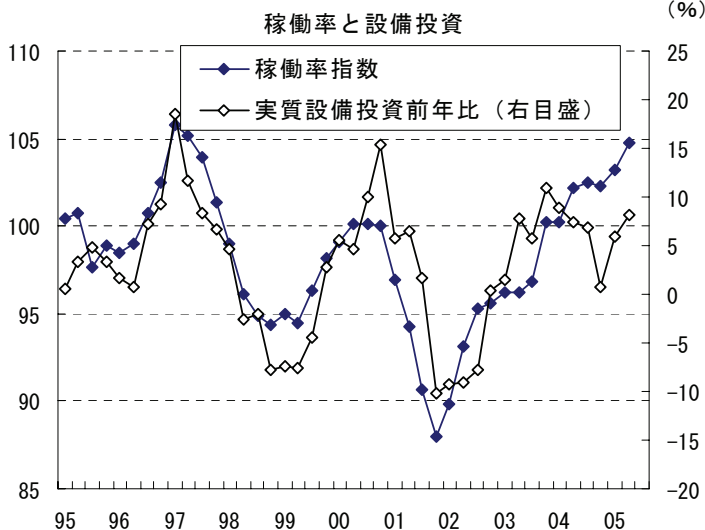
設備稼働率 (季調値、指数)



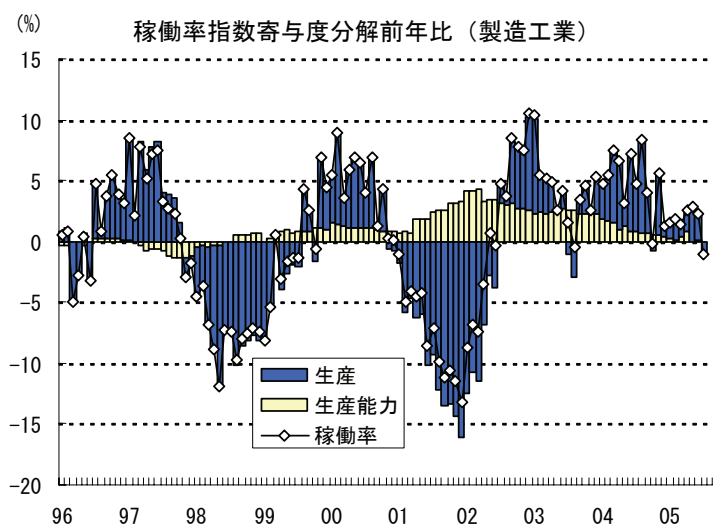
生産能力指数 (製造工業)



稼働率と設備投資



稼働率指数寄与度分解前年比 (製造工業)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。